

杉浦 敏 議員



被災地へのボランティア 参加を、市民に呼び掛けて

問

東日本大震災の救援、復興ボランティア活動について聞く。

5月に5日間、宮城

県へボランティアに参加した。たくさんの人々に来てほしいというのが、現地の人の気持ちである。

一般の人は参加したいと思っても、どうしていいか分からるのが実態ではないか。被災者の思いに応えるため、市として活動が促進されるよう取り組んではどうか。

工夫してほしいがどうか。

市役所に臨時窓口設置、広報で参加呼び掛け、情報提供、ボランティア登録、保険、高速料金が無料になる災害派遣等従事車両証明制度紹介など、市民の潜在

答 福祉課長

**市社協の募集を
市HPで周知**

The screenshot shows the official website of Yatomi City, featuring a recruitment notice for disaster volunteers. The notice is titled '災害ボランティア募集' (Disaster Volunteer Recruitment) and is located on the homepage under the 'おしらせ' (Announcements) section. It includes a link to the 'おしらせ' page and a '募集します' (Recruiting) button.

被災地で活動してもらえる人を、市社会福祉協議会（以下「市社協」）が募集する。ホームページ等で周知するので、希望者は登録を頼みたい。

今後、被災地からの要請や県社会福祉協議会の動きがあれば、市社協、防災担当課と連携を図り、ホームページ等により情報提供に努めていきたい。

錦タワーを参考 に避難所確保を

問

地震、津波発生時の避難所確保について聞く。

三重県大紀町はリアス式海岸の町で、昭和19年の地震による津波で64人が亡くなつた痛ましい経験に立ち、錦タワー【】を建てた。このタワーは2本の川で隔てられた飛び地80世帯、約200のために建てられたと

丈夫な避難所と、わずか

三重県大紀町が10年に建設した、高さ21.8m、5階建ての避難塔。6.5mの津波を想定して約500人が収容可能で、平時は防災倉庫、集会所等として利用している。建設費約1億3千800万円。

答 防災安全課長

錦タワーは、橋が落ちた場合避難できぬ恐れがある地区に建築し、目的や対象住民が明確である。

市は被害想定に対し、どんな施設を設置すれば有効かという検証が、今後必要になると思っている。

避難者全員を受ける施設をつくることは難しいが、今後、国との新しい被害想定が示された後に、有効性を検討していきたい。

な時間的余裕があれば、人命的被害は最小限に食いとめることができる。
一つのアイデアとして、大いに参考になると思うがどうか。

国の被害想定後 に有効性を検討

答 防災安全課長

市は被害想定に対し、どんな施設を設置すれば有効かという検証が、今後必要になると思っている。

避難者全員を受ける施設をつくることは難しいが、今後、国との新しい被害想定が示された後に、有効性を検討していきたい。